

概要版【図画工作科】

図画工作科において自分にとっての意味や価値をつくりだす児童の育成
 ー造形活動のプロセスを可視化するデジタルポートフォリオ「ひらめきリンク」の活用を通してー

令和6年度 前橋長期研修研究員
 前橋市立原小学校 坂本 明紀

研究の概要

研究の目的 図画工作科においてデジタルポートフォリオ「ひらめきリンク」を活用し、授業の終末で造形活動のプロセスを可視化したり、題材の終末で自分の造形活動全体を振り返ったりする活動を取り入れることで、自分にとっての意味や価値をつくりだす児童の育成を目指す。

【児童の実態】

- ・自分の考えや表し方に自信がない。
- ・教師の求める正解の作品を探ったり、完成作品の出来栄に重点をおいてしまったりする傾向がある。

【指導上の課題】

- ・作品の完成度を評価の対象とする傾向がある。
- ・児童一人一人の活動や思考を見取ることに難しさを感じている。
- ・児童が製作の過程に目を向けられるようにする必要がある。

【目指す児童の具体の姿】

- ・試したり考えたりすることを繰り返しながら、表したいことや表し方を自分で決め、更新する姿
- ・作品に自分なりの意図や思いを込めている姿
- ・自分なりに表してきたことを実感し、充実感や自信をもっている姿

題材の学習過程

出会う → 試す・広げる → 表す → 振り返る

造形活動のプロセス

製作の過程において、児童が思いの実現に向け、自分なりのイメージをもって、試したり考えたりしながら表現する過程のこと。そこには、表したいことや表し方、形や色、材料や用具を自分で選び取っていく自己決定が伴う。



自分にとっての意味や価値をつくりだす

自分で「作品」をつくりだす
 自分で「表し方」をつくりだす
 自分の「思い」をつくりだす
 自分の「作品のよさ」「自分のよさ」をつくりだす

手立て1
 「ひらめきリンク」で
 造形活動のプロセスを可視化する

前時までの取組やその成果などを見返し、次の活動へつなげられるようにするために、造形活動において、試しながら思い付いたことや考えたこと、工夫などを授業の終末に記録し蓄積する。

デジタルポートフォリオ「ひらめきリンク」

アイコンの種類と観点	観点
☆ (ひらめき)	いいこと考えた・ひらめいた
🔍 (発見)	思い通りにできた・努力した
👥 (共有)	アイデアを共有した
🔄 (振り返り)	次は、どうしよう・失敗もいい味

【記録するもの】

- ・表したいこと(テーマ)
- ・自分のめあて
- ・製作途中の作品の画像やタイムラプス(早送り再生)動画(画像の上にアイコンを貼付)
- ・振り返り
- ・次に取り組みたいこと

振り返り①

- 表したいことを思い付くことができた。
- 表したいことや表し方を自分で考えて決められた。
- 何度も考えたり、つくりかえりしたり。
- 友達や活動のよさや表し方の工夫に気付いた。

手立て2
 「ひらめきリンク」で
 造形活動全体を振り返る

題材の終末に「ひらめきリンク」を見返し、製作の過程に目を向けることができるようにするために、自分の造形活動全体を振り返る活動を設定する。

- ①「ひらめきリンク」で製作の過程を見返す
- ②完成作品と共に「ひらめきリンク」を友達と見合い、作品の変容や思い、工夫などを話したり聞いたりする
- ③造形活動全体を振り返って、ひらめきストーリーを書く

「ひらめきストーリー」

「ひらめきストーリー」 自分の作品のたどってきた歴史を語ろう!

ここに「たどった活動」「ひらめきリンク」「ひらめきストーリー」のスクリーンショットを貼ろう!

「ひらめき」のアイコン: ひらめき(☆) → いいこと考えた・ひらめいた / シェア(👥) → アイデアを共有した / 振り返り(🔄) → 思い通りにできた・努力した / 失敗(🔍) → 次は、どうしよう・失敗もいい味!

「ひらめきリンク」は、作品がどんなように出来上がったのか、「ひらめきリンク」を見ながら思い付いたこと、振り返り、自分なりに思い付いたこと...

作品の画像やタイムラプス動画を製作の過程に沿って貼り付ける

表現の意図や工夫、製作の各段階での試行錯誤やがんばったことなどを作品説明としてまとめる

自分に贈りたい賞を考える

賞: _____ 自分に賞を贈るとしたら? (OOO) _____

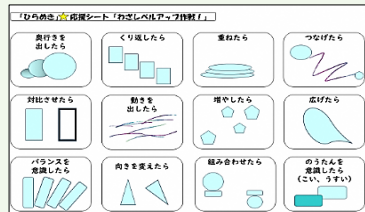
実践の概要

手立て1 「ひらめきリンク」で造形活動のプロセスを可視化する

5年生の実践「消してかく」(A表現 絵に表す) 全6時間(日本文教出版)

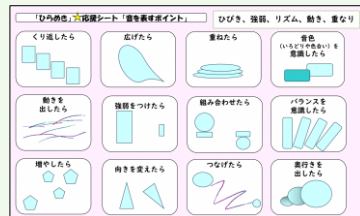
コンテで塗りつぶした画面を消しゴムで消しながら現れてくる形から、思い付いた表したいことを絵に表す活動

授業の導入において、自分が取り組んでみたい技を選び、指さしをして確認した。その後「ひらめきリンク」の「今日のやってみよう!」欄に試したい技や表したいことを入力した。



ひらめき応援シート

発想・構想のきっかけとなるように、児童の作品や参考作品から表し方の工夫を取り上げ、[共通事項]に基づいて技やポイントとしてまとめたもの



自分で考えた表し方を試している様子



製作の過程をタイムラプス動画で見返している様子



試行

音のイメージに合わせて道具を選び、表し方を試している様子

チョークと洗濯のりを合わせた描画材を使って、壁面に音の絵を描いた。刷毛、ローラー、ペットボトルの蓋、スポンジなど、前学年までに経験したことがある道具を用意した。児童は、自分が表したい音のイメージに合わせて、色や道具を選び、表し方を考えていた。



思考

タイムラプス動画と製作途中の作品を見比べている様子

自己決定

児童の「ひらめきリンク」

4時間目終わり

くり返したら

● 表したいことを思い付くことができた。
● 表したいことや表し方を自分で考えて決められた。
● 何度も考えたり、つくりかえたりした。
● 友達との活動のよさや表し方の工夫が気付いた。

5時間目終わり

最初、奥行きを出したのですが、うまくいかず、ちょっと違う奥行きをかきました。変えるのは、悪くないことを改めてわかりました。自分でいいものを作れました。

左の「ひらめきリンク」の児童は、第4時の終末と第5時の終末の作品の画像を貼った。画像の上に「ひらめき」と「見て見て」、「シェア」のアイコンを貼り付けた。「ひらめき」と「見て見て」のアイコンを貼った部分に青い矢印を伸ばし、この時間の表し方の変化や工夫について説明している。

手立て2 「ひらめきリンク」で造形活動全体を振り返る

①「ひらめきリンク」で製作の過程を見返す



②完成作品と共に「ひらめきリンク」を友達と見合い、作品の変容や思い、工夫などを話したり聞いたりする



たくさんある希望の光の中でも、この1つだけ違うということを表したくて、ここに黒の明かりを入れたんだよ

③造形活動全体を振り返って、ひらめきヒストリーを書く

児童の「ひらめきヒストリー」

最初はつがる自由伸びているのを表した。途中から対比を表したくて、**トグをかいてみた。**でもあまり満足できなかったから、**トグに奥行きをだした。**そしたらよくなってきた。試しの時に書いていた花を思い出して花を**書いてみた。**そうすると対比がわかりやすくなった。アイデアが浮かばず、他の学校の作品を見ると、**光をきれいに表している作品を見つけた。**それに憧れ光を書いてみた。そしたら**いい作品を完成させられた。**

心の中の花と光とトグ

左の「ひらめきヒストリー」の児童は、最初になんかことを表そうとしたのか、自分がどこでうまくいったのか、どこが難しかったのか、どのように解決したのかを画像と対応させながら製作の各段階を振り返った。最後は「いい作品を完成させられた」とまとめ、自分に「頑張ったで賞」を与えた。製作の過程に目を向けていることがうかがえる(赤枠部分)。

児童の「ひらめきヒストリー」

ひらめき

見て見て

ひらめき

最初の下絵は優しい色の黄色と、リラックスできる黄緑が飼猫の目の色だったのでその2色を使ってほんわり包み込みような感じの下絵にしようと思いいろろろを使って少し薄くして塗りました。次はまた黄緑、白、朱色を使ってカリカリが落ちる音を描きました。その後は、カリカリがかけられて弾ける音をキャップ、ビー玉、心でかきました。最後に顔をあげる時の妹の音がとても嬉しそうでおおきかったので大きい弾けている様な模様をふたつ描きました。想像とは違っ絵になってしまいましたが、これはこれで優しく、楽しい**いい絵になったと思います。**

至福の時間

表現したいことを表現できたで賞

上の「ひらめきヒストリー」の児童は、「二匹の猫がキャットフードをカリカリ食べている音」を表した。音から自分なりのイメージをもち、表したいことを表すためにイメージを選び、表し方を工夫してきたこと(下線部)について、製作の過程を丁寧に振り返って記述している。自分に「表現したいことを表現できたで賞」を与えた(赤枠部分)。

検証

抽出児の変容

A児の取組の様子

A児は、発想・構想の段階で考え込んでしまい、活動に取りかかるまでに時間を要する児童である。考えている時間が長く、作品は現段階のものをとりあえず提出する様子が見られていた。事前アンケートでは、自分なりに表そうとしているが、表したいことがすぐに思い付かず、表し方を自分で決められないと回答していた。昨年度の授業では、振り返りを書くことに難しさを感じている様子が見られた。



第2時

思考

表したいことを見付けられず、コンテで画面を黒くすることから始めた。第2時が終わると、図工室に最後まで残り、第1時に作成した5学年全員分の試しのカードを、じっと眺めてから自分の教室に戻る姿が見られた。



第4時

自己決定

表したいことをどのように表すか考える時間であった。第3時の「ひらめきリンク」を見返した後、「ひらめき応援シート」を使って自分がこれから試したい技を確認し合った。表したいことは「心」、「動きを出す」ことを工夫しようと決めていた。



第3時

試行

第1時の試しの活動で気に入ったグラデーションを取り入れながら進め、自分で間隔を測っている。「ひらめきリンク」の「自分のめあて」に「イメージを持ちたい」と書いていた。この時間に何度も試す姿が見られた。

試行⇔思考

自分の製作過程を撮影したタイムラプス動画を見直し、じっと見て、微笑んでいた。その後、かいては消すという活動を繰り返していた。



第5時 試行⇔思考 自己決定

第4時でA児は指で境界線をトントンするという表し方を試していたが、第5時では、消しゴムをスタンプのように使い、境界線に沿って模様を付けていた。自分で作りだした表し方に自信をもち、自己決定している姿と捉えた。

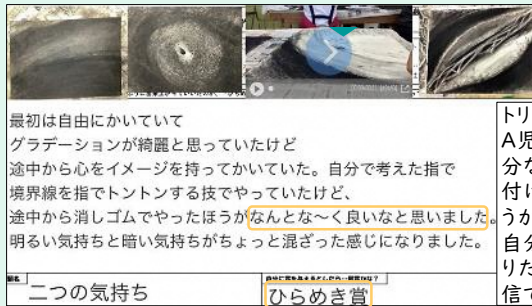


「ひらめきリンク」に自分の撮ったお気に入りのタイムラプス動画と、完成した作品の写真を載せた。タイムラプス動画で完成に至るまでの過程を繰り返し見返していた。



自己決定

第3時の「ひらめきリンク」には、「少し自分のイメージを持てた」と記していた(下線部)。徐々に表したいことが見えてきたことがうかがえる。



第6時

自己決定

最初は自由にかいていてグラデーションが綺麗と思っていただけ途中から心をイメージを持ってかいていた。自分で考えた指で境界線を指でトントンする技でやっていたけど、途中から消しゴムでやったほうがなんとなく良いなと思いました。明るい気持ちと暗い気持ちがちよっと混ざった感じになりました。

「ひらめきヒストリー」の記述から、A児が試しながら自分なりの表し方を見付けていったことがうかがえる。「賞」は自分で表し方を作りだしたことへの自信であると考え。

二つの気持ち

ひらめき賞

A児のアンケート結果の変容

緑枠部は、試すことについての記述

質問	事前(7月)	事後(10月)	聞き取りの内容
かきたいものや、つくりたいものを、すぐに思い付くことができるか	思い付かない	どちらかといえば、思い付かない	試していると思いつくことがある
自分らしく(自分なりに)表そうとしている	表そうとしている	表そうとしている	
表したいことが見つからなかったり、表し方が分からなかったり、思うように表せなかったりしたとき、どのように解決しているか	友達の作品を見たりしている	とりあえず、色々試している	
表したいことや表し方を、自分で決めているか	決めていない	どちらかといえば、決めている	試すのが合っていて、決められるようになった

質問	事後(10月)
「ひらめきリンク」を使って、よかったこと、役に立ったこと、大変だったことなど	どのような絵や模様などをかいたかが一目で分かるし、振り返りがしやすい。大変だったことは無かったと思う。
「ひらめきヒストリー」を書いて、気付いたこと、よかったことなど、思ったこと	いつもより振り返りがしやすい！嬉しい気持ちになった。

アンケート結果から、A児は、表したいことや表し方を思い付くことができたのは繰り返し試した成果であると自覚していることがうかがえる。手立てに関する質問の回答からは、自分の製作の過程が分かることに意義を感じている(赤枠部)。「嬉しい気持ちになった」の記述(赤下線部)からは、自分なりに表してきたことに充実感を感じていると考えられる。

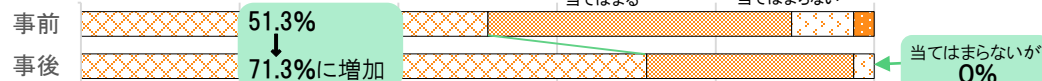
検証

目指す児童像に近付いたかどうかを、「試したり考えたりを繰り返しながら、表したいことや表し方を自分で決め、更新していたか」「作品に自分なりの意図や思いを込めていたか」「自分なりに表してきたことを実感し、充実感や自信をもっていったか」の視点に沿って、以下の方法で検証した。

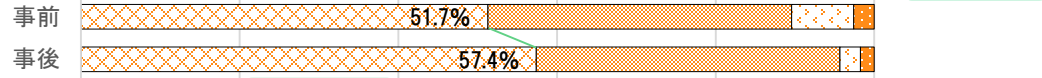
児童アンケートの結果

5・6年生 115名に実施

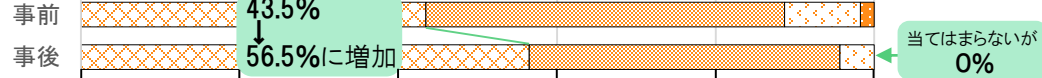
①自分らしく(自分なりに)表そうとした



②表したいことや表し方を自分で考えて決めた



③色や材料・用具を自分で選んで決めた



④「ああしよう」「こうしよう」「もっとこうしたい」など、アイデアがうかぶのは、どんなときですか。(複数回答可)

回答項目(上位3項目)	事前	事後
かいたり、つくったりしているとき	58.3%	71.3%
友達の作品を見たとき	61.7%	67.8%
材料の形や色を見たとき	54.8%	61.7%

①では、「当てはまる」と回答した児童が増加し、当てはまらないが0%となった。
②と③の自己決定に関する項目が増加した。「自分らしく(自分なりに)表す」ためには、「何を表したいのか」「どのような思いを込めたいのか」「どのように表すのか」について考えたり試したりしながら自分で決めていくことが必要であるため、「表したいことや表し方を自分で決め、更新する姿」「作品に自分なりの意図や思いを込めている姿」に近付いたと考えられる。
④では、「かいたり、つくったりしているとき」の回答に伸びが見られた。実際に手を動かすことによって、新しい発想が引き出されることが分かる。児童は自分の表したいイメージを試しながら、「こうしたい」という自己決定につなげていたと考える。

⑤表したいことが見つからなかったり、表し方が分からなかったり、思うように表せなかったりしたとき、どのように解決しているか

事後アンケートにおいて、増えた記述内容を右表に示す

— 自分なりに表すことに関すること
- - - 試行と思考に関すること

- ・友達に聞いたり作品を見たりしたときに少しずつありのままに自分なりにオリジナルに変えてもっと自然にする。
- ・友達のを見て、自分流にアレンジする。
- ・自分の好きなものを思い出して、その中から選ぶ。
- ・先生と話したりアドバイスをもらった時、自分の作品をじっくり見る。
- ・自分の作品を見て物足りないところを探し出す
- ・何回も書いたり消したりして自分の思い通りの作品になるまで書く。
- ・下手でもいいから、とりあえず形をつくる。・色々なことを試してみる。

⑤の記述内容から、児童は試したり考えたりを繰り返しながら、自分なりに表そうとしていたことが分かる。事後では、「自分」という言葉や、自分なりに表すことに関する言葉が増えたことから、思いや独自性を大切にしている創造性が養われてきたと考えられる。

⑥「ひらめきリンク」を使って、よかったこと、役に立ったこと、大変だったことなど

- ・自分がどのように表したいかが分かった。①
- ・自分の変化に気づいた。②
- ・みんなの意見が分かって、自分もこうしたらいいんじゃないかと思った。③
- ・何回も作品を作り直したりすることに役立った。③
- ・友達との共有。友達の質問を聞くと自分も試せる。
- ・文を書くことが大変だった。
- ・めっちゃひらめいてすごいなと思いました。④

⑦「ひらめきヒストリー」を書いて、気付いたこと、よかったことなど、思ったこと

- ・自分の表したいことが改めて分かった。⑤
- ・自分がどうやってこの作品を作ったのか、自分がそのときどう考えているのかが分かった。⑤
- ・自分の作品の変化をみんなに伝えられる。⑤
- ・自分らしさが出せているなど思った。
- ・最初はあまりよくないと思っていても後から見たらこれいいねと思える。
- ・自分の頑張りが見える。

「ひらめきリンク」のアイコンの総数



⑥と「ひらめきリンク」のアイコンの総数から、製作の過程で自分が思い付いたことや考えたことが「ひらめきリンク」によって可視化されたことで、自分の表したいことの再確認(下線①)や作品の変容に気付くことができ(下線②)、次の活動へつなげる姿(更新する姿)が見られた(下線③)。また、アイコンによって発想・構想や努力の成果を可視化できた(下線④)。

⑦から、児童は題材の終末に自分の造形活動全体を振り返り、「ひらめきヒストリー」を書くことによって、製作の過程に目を向けることができた(下線⑤)。また、自分なりに表してきたことを実感したり、充実感や自信をもてたりしたことが分かる(赤枠)。「ひらめきヒストリー」の自分への賞から、児童は、「自分への賞」を与えることで、活動の中で自分が発揮した資質能力や、自分の成長やよさに気付くことができ、自分の活動や作品を肯定的に捉えることができたことがうかがえる。作品に思いを込めたり自分の活動に意義を見いだしたりする姿は、自分にとっての意味や価値をつくりだしている姿に近付いたと考えられる。

「ひらめきヒストリー」の自分への賞の名称と分類

賞の分類	人数	賞の名称(一部抜粋)
技能に関すること	24	(色)白を足した賞、色とりどりにできた賞、虹色賞、(形)とがった賞、丸賞、形いろいろ賞、模様にとだわったで賞、(表し方)動き賞、力加減一等賞、くり返した賞、奥行き賞
発想・構想に関すること	31	ひらめき賞、いいな発見賞、自分で考えられた賞、いろんな気持ちが表せた賞、豊かにかけた賞
努力・成長に関すること	35	たくさん消したりかいたりした賞、コツコツ賞、自信をもった賞、みんなできりあげた賞
その他に関すること	2	A賞、なにこれ?賞

成果と課題

- 造形活動のプロセスを可視化する「ひらめきリンク」を活用したことで、児童が、製作の過程にも目を向け、表したいことや表し方を更新し続けることができた。
- 自分の造形活動や作品を肯定的に捉え、充実感や自信をもてたことは、自分なりの意味や価値をつくりだすことにつながった。
- 教師にとって「ひらめきリンク」は製作途中における児童の発想・構想の見取りがしやすくなり、児童一人一人の思いに寄り添った支援につなげることができた。
- ◇児童の活動の時間を保障しながら振り返る時間を確保することが難しかった。特に、記述による振り返りには時間がかかり、授業中のやり取りの中で児童が資質・能力の視点で発した言葉が、「ひらめきリンク」に記述として反映されないことがあった。教師として題材研究を深め、児童にとって意義のある振り返りを継続できるようにしたい。